

科目名	統計学						
科目名(英)	Medical Statistics						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	金 東 壹		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 1年						
授業概要	リハビリテーションを科学的に理解し、実践したリハビリテーションを客観的に表現し、あるいは評価する場合、統計学の知識・手法が用いられる。本授業では、統計量や区間推定、統計的検定などについて演習を通じて学習し、統計学的な考え方を身に着けることを目標とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				統計量や区間推定、統計的検定などについて説明できる。	
	○	○				統計学的な考え方を身に着ける。	
テキスト・教材 参考図書	石村貞夫ほか『よくわかる医療・看護のための統計入門[第2版]』東京図書						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	統計学とは			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	2	データの収集			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	3	データのまとめ方(1):度数分布表			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	4	データのまとめ方(1):度数分布表			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	5	2変数のデータの関係(1):相関係数			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	6	2変数のデータの関係(2):回帰直線			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	7	クロス集計表の作成			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	8	確率分布			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	9	推定と検定の関係			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	10	区間推定			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	11	仮説検定(1):対応のある平均の差の検定・比率の差の検定			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	12	仮説検定(2):平均の差の検定・比率の差の検定			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	13	クロス集計表と独立性の検定			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	14	まとめ:基礎統計量、区間推定、統計的検定			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
15	まとめ			指定教科書の復習。			
評価方法	(1)授業の中で小テストを複数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				70%
	小テスト	○	○				30%
履修上の注意	電卓を持参すること。						

科目名	コミュニケーション学						
科目名(英)	Communication Studies						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	高柳 希		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 1年						
授業概要	コミュニケーション理論を学ぶことで、幅広い意味を持つ“コミュニケーション”を具体的に理解し自ら考え、物事を進めていくことができる。さらに他者との関わりの中に発生する事柄に対して、多様な視点と他者の立場を想像しながら、深く思考する力を身につける。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				コミュニケーション理論の知識を理解し説明できる。	
	○	○				様々な場面におけるコミュニケーションの方法と重要性を理解し、説明できる。	
		○	○	○		コミュニケーションの基礎知識を踏まえつつ、場面に応じた適切なコミュニケーションができる。	
テキスト・教材 参考図書	宮原哲:新版 入門コミュニケーション論 松柏社 参考文献:末田清子・福田浩子:コミュニケーション学 松柏社 大森武子・大下静香・矢口みどり:仲間とみがく看護のコミュニケーションセンス 医歯薬出版株 山口美和:PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	コミュニケーション概論 コミュニケーションとは何か				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	2	コミュニケーション基礎① メッセージの種類				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	3	コミュニケーション基礎② ノイズの影響				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	4	コミュニケーション基礎③ 様々な能力				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	5	対人コミュニケーション① 会話のスタート				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	6	対人コミュニケーション② 立場と認識				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	7	対人コミュニケーション③ リスニング				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	8	対人コミュニケーション④ 質問と連想				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	9	個人内コミュニケーションと自己概念				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	10	報告・連絡・相談				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	11	対立処理				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	12	パブリックコミュニケーション				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	13	応用① 医療現場とコミュニケーション				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	14	応用① 医療現場とコミュニケーション				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
15	まとめ				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
評価方法	成績処理方法: (1)レポートを1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)コミュニケーション行動習熟度以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○					70%
	レポート		○				10%
	コミュニケーション行動習熟度		○	○	○		20%
履修上の注意							

科目名	社会人基礎力講座Ⅱ (GCBⅡ)					
科目名(英)						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	竹中 祐二	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院・福祉施設勤務	
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 1年生					
授業概要	価値ある自分を認識し“志”を立て行動すること、あきらめずに強く人生を生き抜くことの大切さと素晴らしさを学ぶ。 先人の生き方や言葉から“志”の立つとき、“志”とは何かを学ぶ。 先輩やクラスメートたちの考えや意識に触れ自分自身を振り返り、自分の考えや意見も伝える機会を持つ。					
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:	
					実技:	
	※ 主たる方法:○ その他:△					
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○		○		考えることの大切さを知る。
	○	○		○		自分の言葉で伝える大切さを知る。
	○	○		○		目標の大切さ、志の大切さを知る。
	○	○		○		行動する大切さに気付く。
テキスト・教材 参考図書	1. GCBⅠテキスト 2. GCBⅡテキスト					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	感謝心と思いやりについて(GCBⅠを振り返り)				教科書にて復習
	2	グローバルシティズンと志				教科書にて復習
	3	なぜ志を立てることが大切なのか1				教科書にて復習
	4	なぜ志を立てることが大切なのか2				教科書にて復習
	5	自己を知る～私の過去・現在・未来～1				教科書にて復習
	6	自己を知る～私の過去・現在・未来～2				教科書にて復習
	7	前半の振り返り				前半のGCBで考えたことを復習
	8	伝える力を学ぶ1				教科書にて復習
	9	伝える力を学ぶ2				教科書にて復習
	10	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる1				教科書にて復習
	11	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる2(先輩の講話)				教科書にて復習
	12	自己の大切さと責任を自覚する				教科書にて復習
	13	伝える力を実践する1(シナリオ作り)				教科書にて復習
	14	伝える力を実践する2(3分間スピーチ)				教科書にて復習
15	まとめ				教科書にて復習	
評価方法	(1)レポート 90% (2)発表 10% 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験					
	小テスト					
	宿題・レポート	◎	◎		◎	90%
	発表・作品	◎	◎		◎	10%
履修上の注意						

科目名	解剖学演習					
科目名(英)	Seminar for Anatomy					
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	小川 皓一	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 1年					
授業概要	身体の基本的構造として、感覚器系、神経系の解剖学的構造の理解を図る。また、組織学演習により組織構造の理解を図る。授業形式として、概要となる講義を実施した後、自ら課題学習を進め解剖学的構造と名称を、国家試験レベルを目標としての理解を図る。 また、身体構造・位置関係の総合理解として、肉眼解剖見学を実施する。					
授業形式	講義	○	演習:	○	実習:	
					実技:	
						※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				組織の名称と構造を演習により理解し、国家試験問題を解答できる。
	○	○				感覚器系の解剖学的構造・機能を理解し、国家試験問題を解答できる。
	○	○				神経系の解剖学的構造・機能を理解し、国家試験問題を解答できる。
	○	○				主要な臓器の名称と位置関係を理解し、国家試験問題を解答できる。
テキスト・教材 参考図書	PT・OT・STのための解剖学 渡辺正仁(監修) 廣川書店。 あたらしい人体解剖学アトラス 佐藤達夫(訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル社。 参考文献: ネット解剖学アトラス(第6版) 相磯貞和(訳) 南江堂。 日本文学解剖学 上・下巻(第20版) 金子丑之助(原著) 南山堂。 入門組織学(第2版) 牛木辰男著 南江堂					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	身体の構造の理解 感覚器系 (皮膚、平衡聴覚器)				感覚器の構造・名称、位置関係を自己学習にて進める。
	2	身体の構造の理解 感覚器系 (味覚器、嗅覚器、視覚器)				感覚器の構造・名称、位置関係を自己学習にて進める。
	3	身体の構造の理解 神経系 中枢神経 (脳-1)				中枢神経の構造・名称、位置関係を自己学習にて進める。
	4	身体の構造の理解 神経系 中枢神経 (脳-2)				中枢神経の構造・名称、位置関係を自己学習にて進める。
	5	身体の構造の理解 神経系 中枢神経 (脊髄)				中枢神経の構造・名称、位置関係を自己学習にて進める。
	6	身体の構造の理解 神経系 末梢神経(脳神経-1)				末梢神経系の構造・名称、位置関係を自己学習にて進める。
	7	身体の構造の理解 神経系 末梢神経(脳神経-2)				末梢神経系の構造・名称、位置関係を自己学習にて進める。
	8	身体の構造の理解 神経系 末梢神経(脊髄神経-1)				末梢神経系の構造・名称、位置関係を自己学習にて進める。
	9	身体の構造の理解 神経系 末梢神経(脊髄神経-2)				末梢神経系の構造・名称、位置関係を自己学習にて進める。
	10	身体の構造の理解 神経系 自律神経系				自律神経の構造・名称、位置関係を自己学習にて進める。
	11	身体の構造の理解 神経系 伝導路(上行性・下行性伝導路)				神経伝導路の構造・名称、位置を自己学習にて進める。
	12	身体の構造の理解 神経系のみまとめ (国家試験形式での復習)				国家試験問題にて神経系の構造について理解を得る。
	13	組織学演習①				演習にて自己学習を進める
	14	組織学演習②				演習にて自己学習を進める
15	肉眼解剖学演習				献体 肉眼解剖見学により身体の総合的理解を得る	
評価方法	(1定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験(筆記)	◎	◎			
						評価割合
履修上の注意	身体構造のイメージと解剖学的名称の理解を自己学習において進めておくこと。					

科目名	生理学演習						
科目名(英)	Physiology ; Practice						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	坂口 博信 大津 隆一		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 1年						
授業概要	本講義は実習をまじえながら、生理学の講義で学んだ生理学の知識をより深いものにすることを目標にする。講義を受け教科書で勉強した知識は、実習の実験によって実際に体験することによって、本当の知識として身につけることができる。さらに、実習によって生理機能を計測し、実験データを処理解析して、レポートを作成する方法を学ぶ。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	◎				実習を通して、様々な機能を体得し説明できる	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学第5版 医学書院 参考図書: コメディカルのための生理学実習ノート 南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	電気生理の基礎			学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと		
	2	実習 運動神経伝導速度の測定(誘発筋電図)			実習した内容をレポートできるように整理しておく		
	3	レポート作成			実習した内容を復習し、内容をレポートにまとめる		
	4	知覚と行動(脳の仕組み)			学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと		
	5	実習 随意運動の反応時間(光・音刺激)			実習した内容をレポートできるように整理しておく		
	6	レポート作成			実習した内容を復習し、内容をレポートにまとめる		
	7	体性感覚			学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと		
	8	実習 体性感覚1(2点識別・触圧覚)			実習した内容をレポートできるように整理しておく		
	9	実習 体性感覚2(温度感覚)			実習した内容をレポートできるように整理しておく		
	10	レポート作成			実習した内容を復習し、内容をレポートにまとめる		
	11	脳波 レポート作成			実習した内容を復習し、理解を深めレポートすること		
	12	心電図			学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと		
	13	心電図 レポート作成			実習した内容を復習し、内容をレポートにまとめる		
	14	呼吸量			学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと		
15	呼吸量 レポート作成			実習した内容を復習し、内容をレポートにまとめる			
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習レポート	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	運動学Ⅱ						
科目名(英)	KinesiologyⅡ						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	大内田 由美		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院に作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 1年生						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動に関する身体の構造と機能の関係を理解する。(各関節の構造と機能、歩行)</li> <li>・運動学で得た知識を用いて運動障害の分別ができるようになる。(変形、異常歩行)</li> <li>・運動の学習について理解する。(運動学習)</li> </ul>						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				関節の運動を関節包内運動やバイオメカニクスの知識を用いて説明できる。	
	○	○				運動器疾患で見られる典型的な症状を正常な運動と比較し説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	1)中村隆一・齋藤宏・長崎浩:基礎運動学 第6版補訂. 医歯薬出版 2)嶋田智明・平田総一郎 監訳:筋骨格系のキネシオロジー. 医歯薬出版 3)配布資料 参考文献: 1)山崎敦:運動学. 羊土社 2)I A Kapandji(荻島秀男監訳):カパンディ関節の生理学. 医歯薬出版 3)PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編. 南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	肩関節の構造と機能(上肢帯、肩甲上腕関節、胸鎖関節、肩鎖関節) 肩関節の構造と機能(烏口鎖骨間メカニズム、肩甲胸郭関節、第2肩関節)				資料・テキストを用いて復習	
	2	肩関節の臨床運動学 肘関節・前腕の構造と機能				PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編・ 復習テストを用いて復習	
	3	肘関節・前腕の臨床運動学 手関節の構造と機能				PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編・ 復習テストを用いて復習	
	4	手関節の臨床運動学 手指の構造と機能				PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編・ 復習テストを用いて復習	
	5	手指の臨床運動学 手指の変形機序				PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編・ 復習テストを用いて復習	
	6	上肢のまとめ 股関節の構造と機能(関節の構造、靭帯、関節の運動)				資料・テキストを用いて復習	
	7	股関節の構造と機能(股関節の安定に関与する因子) 股関節の臨床運動学				PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編・ 復習テストを用いて復習	
	8	膝関節の構造と機能(関節の構造、膝蓋骨、関節半月、靭帯) 膝関節の構造と機能(関節の運動)				PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編を 用いて復習	
	9	膝関節の臨床運動学 足関節・足部の構造と機能				PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編・ 復習テストを用いて復習	
	10	足関節・足部の臨床運動学 足の変形				PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編・ 復習テストを用いて復習	
	11	下肢のまとめ 体幹の構造と機能 体幹の臨床運動学				資料・テキストを用いて復習	
	12	体幹の臨床運動学 正常歩行(歩行周期)				PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編・ 復習テストを用いて復習	
	13	正常歩行(歩行の決定因、床反力、歩行時筋活動、小児と高齢者の歩行の特徴)				資料・テキストを用いて復習	
	14	異常歩行 運動学習(運動能力、学習の転移、運動パフォーマンス、運動技術、動機づけ)				PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編・ 復習テストを用いて復習	
15	運動学習(運動学習の段階、フィードバック、練習法と学習曲線) 運動学習(運動学習理論、運動学習を支える神経機構)				PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編・ 復習テストを用いて復習		
評価方法	(1)授業の中で小テストを12回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト	◎	◎				100%
	宿題・レポート						
発表・作品							
履修上の注意							

科目名	人間発達学						
科目名(英)	Human Development						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	竹中 祐二		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院・福祉施設で作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 1年						
授業概要	発達障害のリハビリテーションを実施するうえで基本となる発達過程を理解する。さまざまな発達領域における理論的枠組みとそれらが相互に関係しあって生じる 発達の多様性を小児期を中心に学習する。また、各ライフステージにおいて、人として前向きに生きるということを考える。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人間発達学の定義、関連用語を知り、人間発達学の意義を理解する。	
	○	○				発達理論の歴史とその変遷を知り、各領域の代表的な発達理論を理解する。	
	○	○				乳児期、幼児期、学童期における発達の特徴を理解する。	
	○	○		○		保育園実習で、こどもたちの安全に配慮し、こどもたちと楽しく一日過ごす。	
テキスト・教材 参考図書	細田多穂 編 シンプル理学療法作業療法学シリーズ 人間発達学テキスト 南江堂 参考文献:(1)社団法人日本作業療法士協会監修:作業治療学3 発達障害、協同医書、2010 (2)上田礼子:生涯人間発達、改訂第2版 三輪書店、2012 (3)J.H.de Hass:乳児の発達一写真で見る0歳児一、医歯薬出版、1977 (4)上杉雅之:イラストでわかる人間発達学、医歯薬出版、2015 その他						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	人間発達とは?					
	2	発達理論とその価値観;運動発達、認知・心理発達の視点から					
	3	発達理論とその価値観;行動発達、社会的発達の視点から					
	4	運動機能の発達;体格、姿勢の発達					
	5	運動機能の発達;胎児期～新生児期					
	6	運動機能の発達;胎児期～新生児期					
	7	運動機能の発達;幼児期～学童期					
	8	認知機能の発達;ピアジェの認知発達段階					
	9	認知機能の発達;ピアジェの認知発達段階					
	10	情緒の発達;乳児期～学童期のパーソナリティの発達					
	11	社会性の発達;乳児期～学童期の日常生活能力の発達					
	12	言語の発達;乳児期～学童期					
	13	遊びの発達;乳児期～学童期					
	14	保育園実習				一日こどもたちと過ごすので体力が必要です。その他、準備物等は伝えますので、当日忘れないようにして下さい。	
15	保育園実習後の発表				レポート作成と発表を行ってまいります。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)保育園実習後、レポートを作成してもらい、発表してもらいます。以上を下記の観点・割合で評価します。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とします。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				60%
	レポート、発表	○	○		○		40%
履修上の注意	※人間発達学は集中講義ですが、保育園実習は10月ごろに1日の日程で実施します。日程が決まり次第、連絡をします。また、保育園実習は8時半集合、16時頃の終了を予定しています。その後は通常の夜間の講義があります。						

科目名	基礎医学講座 I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	原田 芳美		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	作業療法士として病院で勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の構造・機能について、骨標本や模型等を利用して名称や位置関係を理解しながら覚える。</li> <li>・解剖学、生理学、運動学の授業と関連させながら対象範囲の国家試験問題を実施する。</li> <li>・各項目で確認テストを実施して、学生自身に理解度を振り返ってもらう。</li> <li>・授業範囲の国家試験対策ノートを作成する。</li> </ul>						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		骨・関節・筋の名称、位置、構造を説明することが出来る。	
	○	○		○		各臓器の名称、構造、機能を説明することが出来る。	
	○	○		○		授業内容に沿った作業療法士国家試験の問題を解答し説明することが出来る。	
	○	○		○		授業の範囲において国家試験対策に活用できるノートの作成することが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:1麻見直美, 川中健太郎: 栄養科学イラストレイテッド運動生理学 羊文社 2.竹内修二: 解剖トレーニングノート 医学教育出版社 3.竹内修二: 生理学トレーニングノート 医学教育出版社 4.あたらしい人体解剖学アトラス 佐藤達雄(訳)メディカル・サイエンス・インターナショナル社 5.中村隆一, 齋藤宏: 基礎運動学 医歯薬出版株式会社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	コースガイダンス			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	2	骨格系～骨の各名称～(下肢・骨盤性差)			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	3	骨格系～骨の各名称～(上肢)			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	4	骨の連結(関節の名称・形態・運動方向)			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	5	骨格系～骨の各名称～(顔面・体幹)			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	6	代謝と栄養(基礎代謝とエネルギー代謝)			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	7	代謝と栄養(栄養素・糖質代謝・脂質代謝・蛋白質代謝)			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	8	呼吸器 I (各部名称と機能)			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	9	呼吸器 II (国家試験問題演習/解答発表)			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	10	循環器 I (各部名称と機能)			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	11	循環器 II (国家試験問題演習/解答発表)			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	12	泌尿器・内分泌器 I (各部名称と機能)			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	13	泌尿器・内分泌器 II (国家試験問題演習/解答発表)			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	14	消化器 I (各部名称と機能)			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
	15	消化器 II (国家試験問題演習/解答発表)			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の国家試験対策ノートを作成する。		
評価方法	(1)各項目の内容の国家試験対策ノートを作成する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	◎	◎		○		100%
発表・作品							
履修上の注意	定期試験は実施せず、国家試験対策ノート提出を実施し成績評価をする。						



科目名	一般臨床医学						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	安藤 廣美		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 1年						
授業概要	医学の成り立ちや基本姿勢、医学対象となる健康・病気の概念や基本的な診断・治療について学ぶ。また代表的な疾患についての理解を深める						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		医療人である前に社会人である自覚を持つことができる。	
	○	○		○		医学の歴史と体系を説明できる。	
	○	○		○		医療人として倫理観を持つことができる。	
	○	○		○		疾病の構造を説明できる。	
	○	○		○		診断の意義を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学概論/日野原重明/医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	医学の歴史と体系1: 医学の起源、古代の医学				教科書の予習をしておく。	
	2	医学の歴史と体系2: 中世の医学、近世の医学				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	医学の歴史と体系3: 20世紀以降の医学				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	医学の歴史と体系4: 我が国における医学の発達のすがた				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	医学の倫理1: 医学概論で何を学ぶか、医学とは何か				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	医学の倫理2: 人間の生命を考える、病気と医学				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	医学の倫理3: 医学とリハビリの実践のために、死への対応				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	生体の恒常性と健康: 健康・病気・医学の体系				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	疾病構造の変化と医学の変貌: 新しい医療システム				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	病気と診断学1: 病気の原因				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	病気と診断学2: 病気による身体の変化				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	病気と診断学3: 病気の診断				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	病気と治療学: 病気の治療とリハビリテーション				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	救急医療・疾病予防: 病気の予防				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	15	まとめ				教科書、資料の復習。	
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎		○		20%
履修上の注意							

科目名	臨床心理学						
科目名(英)	Clinical Psychology						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	井上 慎司		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 1年						
授業概要	こころの問題を抱えた人やその家族についての理解と援助の方法を研究・実践する臨床心理学について、基礎的な知識・技法を学習し理解する。また、卒業後の現場において臨床心理学の知識を活かしていただけるために、他者とのかかわりや自分自身についての思考・感情・言動をふり返り、理解する視点をもつ機会とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	◎				心理アセスメント(知能検査, 性格検査, 適性検査)を列挙できる。	
	◎	◎				発達および人格理論の種類と概要を説明できる。	
	◎	◎				各種心理療法の種類とその概要を説明できる。	
	◎	◎				医療領域における心理的援助の留意点を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	『よくわかる臨床心理学 改訂新版』下山晴彦 編 ミネルヴァ書房 参考文献:川瀬正裕・松本真理子・松本英夫 心とかかわる臨床心理[第3版]ナカニシヤ出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	臨床心理学とは何かー歴史			教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと		
	2	臨床心理学とは何かー臨床心理学と心理臨床			教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと		
	3	問題を理解するー心理アセスメント① 知能検査・人格検査			教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと		
	4	問題を理解するー心理アセスメント② 事例を通した理解			教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと		
	5	心理臨床の基礎ー心理的な悩みと精神病理			教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと		
	6	発達・人格理論① 古典的精神分析理論			教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと		
	7	発達・人格理論② 現代精神分析理論			教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと		
	8	発達・人格理論③ ロジャーズらの理論			教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと		
	9	心理療法① 古典的精神分析療法			教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと		
	10	心理療法② 論理療法・認知療法			教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと		
	11	心理療法③ 来談者中心療法			教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと		
	12	心理療法④ 現代精神分析			教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと		
	13	医療領域における心理的な援助			教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと		
	14	事例を通した理解			試験対策を行っておくこと		
15	まとめ			試験対策を行っておくこと			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意	国家試験の過去問に目を通し、どの程度の心理学・臨床心理学的な知識が求められるのかをひとまず理解したうえで、医療従事者として、さらなる心理的な理解を深めることが望ましい。						

科目名	リハビリテーション概論Ⅱ						
科目名(英)	Introduction to RehabilitationⅡ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	安部 剛敏		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 1年生						
授業概要	リハビリテーション医療はチームアプローチが基本である。多職種の役割と専門性を知ることや、多職種から作業療法士に期待されていることを知ることは、多職種連携するうえで非常に重要となる。本科目では作業療法士以外である9職種の専門性について教授し、各障害領域でのチームアプローチの実際についても講義を行う。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				各専門職と役割について説明できる	
	○	○				各リハビリテーションの分野・領域における専門職の役割を説明できる	
	○	○				チームアプローチについて説明できる	
テキスト・教材 参考図書	セラピストのための概説リハビリテーション 第2班(文光堂)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	リハビリテーションに関連する専門職				教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。	
	2	作業療法士(役割と専門性)				教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。	
	3	理学療法士(役割と専門性)				教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。	
	4	言語聴覚士(役割と専門性)				教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。	
	5	義肢装具士(役割と専門性)				教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。	
	6	看護師(役割と専門性)				教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。	
	7	精神保健福祉士(役割と専門性)				教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。	
	8	介護福祉士(役割と専門性)				教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。	
	9	臨床心理士(役割と専門性)				教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。	
	10	医療ソーシャルワーカー(役割と専門性)				教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。	
	11	医師(役割と専門性)				教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。	
	12	身体障害領域でのチームアプローチの実際				教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。	
	13	精神障害領域でのチームアプローチの実際				教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。	
	14	発達障害領域でのチームアプローチの実際				教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。	
15	まとめ				教科書の予習をしておく。 レポートを作成する。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)レポートを1回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				20%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	作業療法理論						
科目名(英)	Occupational Therapy Theory						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	安部 剛敏 老川 良輔		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の作業を振り返りながら作業の多面性、意味や形態、機能について学習する。</li> <li>・作業療法の基礎理論である人間作業モデルおよび作業遂行と結びつきのカナダモデルの概要と基本的概念を学習し、事例を通して作業療法の重要性と視点を理解する。</li> </ul>						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				作業とは何か? 日本作業療法士協会の定義を用いて、その多面性を説明できる。	
	○	○				人間作業モデルにおける作業の分類を列挙できる。	
	○	○				吉川らの「作業の意味を捉えるための枠組み」を列挙できる。	
	○	○				作業遂行と結びつきのカナダモデルの概要を理解し、要点をクラスメイトに説明できる	
	○	○				人間作業モデルの概要を理解し、要点をクラスメイトに説明できる	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉川ひろみ:「作業」って何だろう。医歯薬出版。</li> <li>・小川真寛:作業療法理論の教科書。MEDICAL VIEW。</li> <li>・その他、オリジナル資料配布</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	コースガイダンス・作業療法理論を学ぶ目的			振り返りシートで復習してください。		
	2	作業科学			振り返りシートで復習してください。 自分の作業に関するレポートを作成します。		
	3	作業の意味① (引き起こされる感情/目的or手段/世界とのつながり/自分らしさ)			振り返りシートで復習してください。 作業の意味に関するレポート作成をします。		
	4	作業の意味② (類型化/社会的意味/健康との関連性/生活の構造化)			振り返りシートで復習してください。 作業の意味に関するレポート作成をします。		
	5	作業バランス演習			振り返りシートで復習してください。 作業バランスに関するレポートを作成します。		
	6	作業の形態と機能			振り返りシートで復習してください。		
	7	作業科学の諸概念			振り返りシートで復習してください。		
	8	作業科学と作業療法			振り返りシートで復習してください。 作業的公正に関するレポートを作成します。		
	9	作業療法理論と臨床実践			振り返りシートで復習してください。		
	10	作業療法における理論①(なぜ作業療法理論が大事なのか)			振り返りシートで復習してください。		
	11	作業療法における理論②(作業療法理論と実践/現状)			振り返りシートで復習してください。		
	12	作業遂行と結びつきのカナダモデル(CMOP-E)①			振り返りシートで復習してください。		
	13	作業遂行と結びつきのカナダモデル(CMOP-E)② 事例			振り返りシートで復習してください。		
	14	人間作業モデル(MOHO)①			振り返りシートで復習してください。		
	15	人間作業モデル(MOHO)② 事例			振り返りシートで復習してください。		
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	小テスト						
	宿題・レポート	◎	◎				30%
	発表・作品						
履修上の注意							